

2024年 小樽

# 多喜二祭

没後91周年

6月1日(土) 記念のつどい

会場 小樽市民センターマリンホール

(小樽市色内2丁目)

参加費 1,000円 (高校生以下無料)

◆14時～：市民による構成劇

「2月20日—小林多喜二のお母さんへ」

原作 壺井繁治

脚色・演出 大地巖

出演 村井弘行・石田美樹子・大内尊夫・ぎよに一  
工藤剛・坂本憲昭・佐々木雅美・信田千恵

◆15時～：記念講演 高野宏康

北海道の「心臓」と「民の力」

～多喜二の見た小樽～

(講師：小樽商科大学客員研究員 歴史民俗学博士  
地域レジリエンス株式会社代表取締役)

6月2日(日)

◆11時～12時 墓前祭

奥沢墓地(小樽市奥沢五丁目)多喜二墓前

◆14時～15時30分 ガイドマップ「多喜二と小樽」オリエンテーリング

多喜二の作品や運動・闘いの舞台をガイドマップのコースをもとに徒歩でめぐります

募集30名程度・資料代500円・小樽市民センター集合



小林多喜二 1903年～1933年

かつて、小林多喜二は「小樽は人口15～6万の、街並みが山腹に階段形に這い上った港町で、広大な北海道の奥地から集まってきた物産が、そこから又内地へ出て行く謂わば北海道の「心臓」みたいな都会である」と表現しました。〈「女人芸術」1932年1月号郷里の顔〉

その背景には小樽にやって来た様々な人々の「民の力」があり、小樽の街を発展させ、衰退した時期にも街の再生を支えてきたのです。